



KAMEDAJIMA

「はにかむエブリデイ」

亀田の郷の縞だより

令和6年

008

「はにかむ」=しよしがり(はずかしがり)な亀田の人々、「ハニカム」=自然界に存在する丈夫で美しい亀の甲羅の構造。

強く優しい亀田縞と、この地にくらす人々をイメージしています

亀田縞利用促進協議会

Person

メンズショップはしため

橋本智子さん 古泉眞生子さん



子どもたちの成長を見つめる

地域の人情交差点

昭和33年から続く商店街の洋品店「はしため」。新学期目前の店内は、学生服や体操服を新調するお客さんの弾んだ声が満ちている。

店を経営する「ねえちゃん」智子さんと、裾上げや修繕、名札付けなどミシンを操る「まっちゃん」と妹の眞生子さん。姉妹は高校を卒業すると父親の下で学び、以来今日まで二人三脚でお店を切り盛りしている。

制服は開店当初から扱う商品だ。66年の歴史の中で、かつての学生が親となり、子や孫と一緒にまた訪ねてくれる。「俺のこ」と覚えてるかね、なんて声をかけてもらえる商売、他にはないものね」と目を細める。

仕事柄、時代の移り変わりを肌で感じてきた。たとえば昔の子どもたちは休日に出る時も制服を着用し地域みんなで見守っていたのだが、今は逆に制服も名札も身につけない事が子どもを危険から守ることになる。また昔は学生服にも個性があったけど今はみんな同じものが一番よいとされる風潮に。

そんな時代の変遷を少しさびしく感じる一方で心が躍る新しい試みも。「まちゼミ」では毎回子どもたちと一緒に小物を作りながら賑やかに過ごす。次は何をしようかと2人で相談し、キッズとの新しい縁を楽しみにしている。

亀田縞との縁は7年前から。智子さんが中営機業を訪ね、「ご主人から二重ガーゼで何か作ってみたいらどうだねとヒントをもらって」始まった。マフラーを縫うと好評で2人も愛用中。趣味のソフトバレーでは「寒がりの私は首に巻き、まっちゃんは汗を拭くのに使っています。一つの品をいろんな用途で使えるのが亀田縞の良さですね」。

かつて染め屋を営んでいた創業地袋津の店舗では、93歳の母親が今も毎日店番をしている。営業は午前中だけだがお客さんとおしゃべりが元気の源になっているとか。

毎朝智子さんが母を袋津へ送り、昼に眞生子さんが迎えに行く。仲良し姉妹の連携プレーはここでも見事に発揮されている。



眞生子さんと職人さんが作る亀田縞のオリジナル雑貨が並ぶ店内。手の込んだ手作りの品々と手描きのポップに心和む。



Yシャツや靴下などが一式揃う。商店街のお店ならではの安心感。

特集

カメ子展覧会で歴史を知る 亀田縞復活の日々に 思いを馳せて

今年は2005年に亀田縞が復活してから20周年。
半世紀を経てどのようにして蘇ったかを振り返ります。

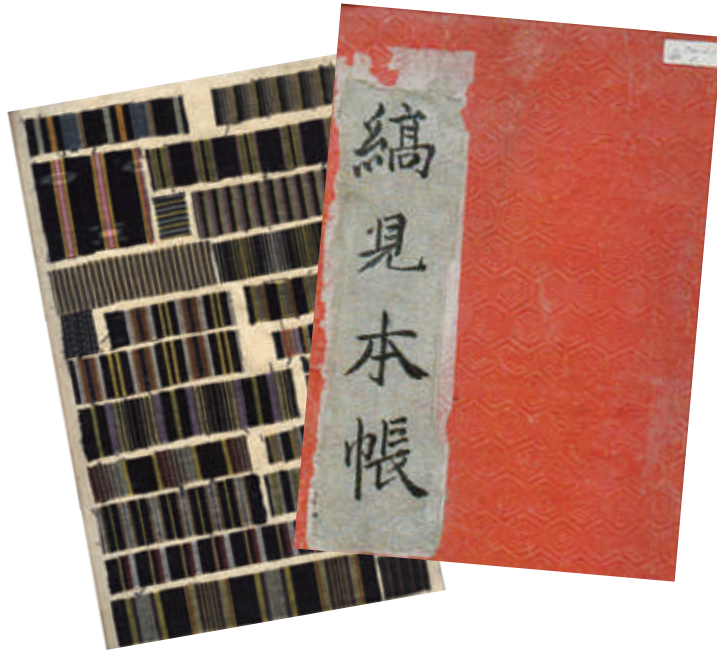
崩れて粉になる布：
失われた織物の復活

こんにちは。亀田縞広報見習いカメ子です。先日、新潟県立歴史博物館で県内各地に存在した木綿の文献や衣類を一室に集めた『最後の木綿いまむかし』展が開催され亀田縞に関する資料も並びました。かつての隆盛と衰退、半世紀を経て復活という流れは断片的に知っているけれどこうした経緯を資料で目にするのは初めてでした。

そこで展覧会初日のテープカットを終えホッとしている上司のひろし氏に、亀田縞は半世紀を経てどのようにリススタートしたのか解説してもらいました。

2002年。かつて600社以上あった亀田縞関連業者は2社の機屋となり、それぞれ日々の仕事に追われる中、亀田織維工業協同組合では生き残りをかけて「自分たちらしい物を作り出したい！」と研究を進めていました。江南区郷土資料館に残る縞見本帳から細かい縞模様を分析して※マス見本を作って試したり、廃業した機屋を訪ねて倉庫に眠る昔の亀田縞を見せてもらうと、布に触ったとたん砂のように崩れて粉になってしまったこともあったとか…。

その後、当時の組合長である中営機業前社長の中林照雄さん(故人)は亀田縞復活の覚悟を決めて踏み出し、縞の色柄パターンを試作



し、組合はグラフィックを描き、コンセプトを表現する糸や風合いを試行錯誤して最初の亀田縞が完成(CN1〜6)。立川織物と一緒に亀田縞をやらねかね」と声をかけます。同じ想いから糸の選定や織りの密度、小ロット注文に対応できる横縞などを考案し独自の工夫を重ねて半年後に完成。こうして2005年、地域の産品として亀田縞は復活しました。

※マス見本/実際の縞柄を糸色を変えながら織りサンプルを作る作業。



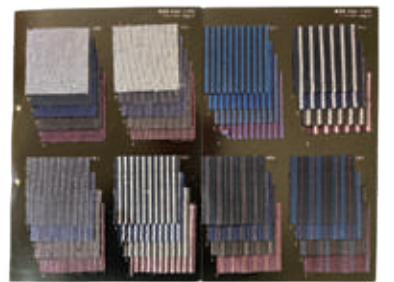
亀田縞復活の歩みはその都度各新聞紙上でも取り上げられました。当時の「亀田縞に関わる人たちが食べていけるように」という思いが語られ、若い世代のデザイナーによるファッションへの利用から商標登録後の販路開拓の課題まで、幅広く報じられている。



▲2018年1月23日/新潟日報



▲2014年5月20日/新潟日報



(上)復活した最初の亀田縞
中営CN1〜6
(2005年)。
(下)立川織物
では矢継に可能性を見出して研究していた。



はにかむ 機屋だより

中営機業(有)

わが家の庭もにぎやかに
春の息吹を感じています

雪が消えるとまず庭にふきのとう、続いてねこやなぎが咲きます。最初は少し赤みがかっていて次第に白くなり、ふわふわで可愛い大好きな花なの。すこし枝を折って事務所にも飾ります。続いて黄桜、山茶花、水仙とにぎやかになります。



中林 恵利子 さん

今月のイチ押し!

スリッパ

新しい季節には気分をかえて亀田縞のスリッパを。足を入れた感覚がよくてリピーターも多い。シンプルでギフトにも喜ばれる人気の品。サイズM/L。



中営機業(有) 新潟市江南区曙町 1-8-18 | TEL.025-381-5163

大正12年創業。縦縞で織り進めるため丈の長い浴衣や着物なども得意。亀田縞の素朴で優しい風合いを生かし、綿、ちぢみ、綿麻、ガーゼなどバリエーション豊富。

亀田縞の2軒の機屋のご主人へよもやまインタビュー。
個性豊かな縞柄を生み出す2人の人柄にふれてみよう、というコーナーです。

今月の
テーマ

春の
ニュース

立川織物

ギャラリーをリニューアル
わが家の歴史と共にお楽しみください

お客様にゆっくり商品を見てもらえる空間を作りました。母親の嫁入り道具だった桐箆笥や、父親やもっと先代の道具入れをディスプレイに使ったら雰囲気のある空間に。長年の計画が実現できてホッとしたり我々もリフレッシュしました。

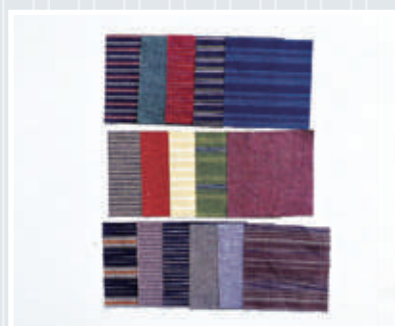


立川 治秀 さん

今月のイチ押し!

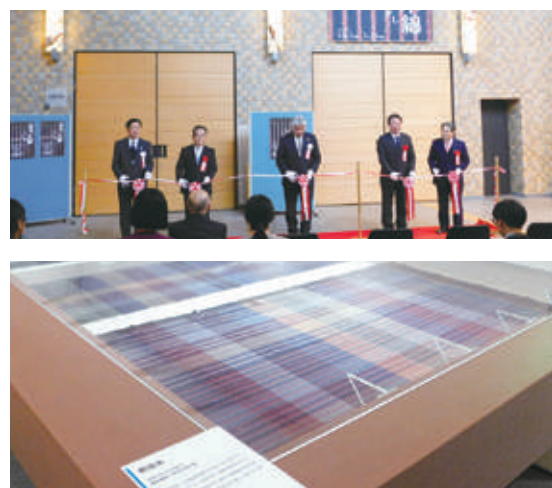
はぎれセット

手仕事好きの人におすすめしたいはぎれのセット。中は全部別な色柄が入っている。開けてワクワク、自由な発想で楽しんで。20枚入/16枚入/12枚入の3タイプ。



立川織物 新潟市江南区袋津3丁目1-52 | TEL.025-381-3067

迷路のまち、袋津の一角にある明治17年創業の機屋。横縞で織り進めるのが特徴で、通常の亀田縞より粗野感のある太めの糸で織りあげる。スベック染を行う。



千趣会ベルメゾンのカタログ『山笑う』2008年春夏号。俳優山口智子さんとの出会いが亀田縞を全国に知っていただくきっかけになった。



その後新潟市江南区の「伝統織物『亀田縞』」が地域団体商標に登録され、地域ブランドへとまい進する現在へ続くのですが、復活前夜からのお話はここまでになります。

木々が芽吹き、山全体が華やぐまさに『山笑う』の季節が到来。復活から20周年の春の陽光が、亀田縞の未来を明るく照らす予感に思えるカメラ子でした。

『山笑う』という起爆剤
そして地域のブランドへ

その後、中管機業は声がかかったすべてのお店に布を持って足を運び、立川織物も依頼されてサンプルを送りますが「全部それっきりで：悔しい思いをしたんさ」。組合も丁寧に亀田縞を紹介し続けるが苦戦。それでも地元の応援に力をもらい活動を続ける中で出会ったのが千趣会ベルメゾンのカタログ『山笑う』の亀田縞製品採用でした。

クリエイティブディレクターをつとめるのは俳優山口智子さん。日本の繊維産地に関心を持ち各地を巡っていたその目にとまり、山口さん自身が織元を訪れて取材、撮影も袋津や地元で行われました。カタログが全国に届けられると、山口さんの飾らない伸びやかな魅力と亀田縞の大きな特徴、地元の空気がマッチして評判に。それをきっかけに少しずつ県外でも知ってもらえるようになりました。

その後新潟市江南区の「伝統織物『亀田縞』」が地域団体商標に登録され、地域ブランドへとまい進する現在へ続くのですが、復活前夜からのお話はここまでになります。



新潟県立歴史博物館で行われた冬季テーマ展示「越後の木綿 いまむかし」(2024年1月13日～2月25日)。入ったところには亀田縞のコーナーも。写真右中の展示物がマスキ本。

NEWS & INFO

新商品やイベントのお知らせ、プレゼントなど地域の情報を随時募集中！
内容の問合せはすべて亀田縞利用促進協議会広報部へ。

亀田縞応援隊の冬、地味だけど未来につなぐ大切な作業です

晩秋に背丈ほどに伸びた綿の木を抜き畑じまいすると、青山さんの冬の作業が始まる。綿の木を自然乾燥させると収穫に間に合わなかった綿花がまだ開く。綿の中には種がある。綿繰りしたあとに残ったすべての種を、一人で小袋により分ける作業は、難儀すぎて地味すぎて気が遠くなりそう。だけど種を少しもむだにせず、なるだけ昔に近いやり方で亀田縞を未来へつなぐ歩みはとても小さいがとても大きい。



▲楽しく綿を育ててもらおうきっかけになればと亀田縞種まきセットを作りました。カメダジマストアほかで発売中。

タペストリーの設置事業今年も亀田縞が増えました

お店や施設にタペストリーを設置して日常的に亀田縞に目を留めてもらおうとスタートした景観事業も今年で4年目。今年度仲間となったのは四季折々フレッシュな農産物が並ぶ亀田駅前通りの直売所と、100年以上の歴史をもつ並ぶ亀田新明町の地酒屋さんだ。タペストリーを目印にぜひ立ち寄りしてほしい。

- 令和5年度タペストリー設置場所
小島屋酒店(新潟市江南区亀田新明町5-1-10)
気楽市(新潟市江南区旭3-1-58)



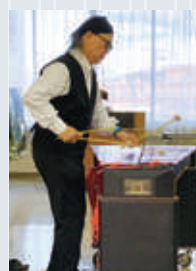
地元中学生から届いた吉報 プレゼンコンテスト優秀賞を受賞

昨年末、新潟明訓中学校3年生が当組合を訪問。亀田縞の歴史や現在の活動を話したが、その後、国際理解教育プレゼンテーションコンテストで優秀賞を受賞したと礼状をいただいた。テーマは「グローバル化による独自文化の消滅」。手紙には今後は亀田縞に触れる機会を増やしたいとたいへん嬉しい言葉が添えられていた。



亀田縞好きな人はぜひ参加をファンクラブが発足

「亀田縞」をテーマに集まり、時に語り、時にそれを着て呑み、亀田縞を好きな人々の自由な意見交換の場を目的とした「亀田縞ファン倶楽部」が4月より発足。記念にJAZZヴァイブラフォン奏者浜田均氏のミニコンサートを開催。即興で能楽の大鼓とのセッションも行われ会場を沸かせた(12月27日)。誰でも参加でき会員は随時募集中。



01 亀田縞公式ホームページからバックナンバーをご覧いただけます

皆さんのまわりの亀田縞ニュース、お気に入りの亀田縞、まちの情報もお待ちしております。こちらからメッセージお待ちしております。

ホームページは
こちら



トップ
ページ



バック
ナンバー
一覧



各号が
見られ
ます



02 本紙の設置場所ご案内

江南区ホームページではバックナンバーと本紙の設置場所をご案内しています。

新潟市トップページ ▶ 江南区 ▶ 江南区の取り組み ▶

▶ 政策・計画・取り組み ▶ 亀田縞利用促進プロジェクト ▶

▶ 亀田の郷の縞だより



ホーム
ページは
こちら



次はいつ出るの? こんなこと知りたい、こんな人がいるよ、と声をかけてもらうことが増えました。ありがとうございます。亀田縞利用促進協議会一同感謝です。いっそう頑張ります。

03 SNSフォローお願いします

亀田縞のイベントや新商品情報、本紙の取材秘話など発信中。



お気に入りの亀田縞

亀田縞の公式サイトではみなさんの亀田縞の作品を募集中。洋服、アクセサリーやバッグなど。デザイナー、作家さんの作品から、街で買った、自分で作った、お気に入りの亀田縞を教えてください。昔の物でも今の物でもOK。ご応募お待ちしております!

■投稿はこちら ▶ <https://kamedajima.net/showcase>

シフォンの透け感と縞柄が絶妙
リバーシブルのショール

お手製の大柄ショールで颯爽と行く燕市の神田淳子さん。三条市のITOYA本店で選んだのは顔周りが明るくみえる布地(中管26-4)。ざっそく手持ちの薄いインド綿のスカーフに重ねると色彩も雰囲気もよく合って、シフォンの背景に縞が表れてお花の刺繍も映えました。「亀田縞は生地がしっかりしていてシワになりにくい。それにフリンジを作るのに緯糸を抜きやすかったです」と手仕事をされる方ならではの感想も。

県立歴史博物館にて。もともと遺跡が好きで▶
関心ある講座に通ううち民具や古い布にも
興味が広がったのだとか。



はにかむ for the future 活動日記

バス巡りとまち歩きで江南区を堪能
たくさんのご参加、ありがとうございました!!

3月23日(土)、バスに乗って旅気分を味わいながらまち歩きも体験、江南区をまるごと体感できる「江南区ツアー」を開催しました。亀田から阿賀野川沿いまで広範囲をバスで巡りながら、酒屋のまちでは歴史の足跡をたどり、袋津では迷路のまち歩きを楽しみながら二班に分かれて機屋の工場を見学も。その後はガイドさんの案内で北方文化博物館を見学するというゴールデンコースに。

当日はツアーアンパサダーに袋津生まれの小池希実さん(ミス・ユニバース・ジャパン2022プレミナリー新潟県代表)を迎え、バスの中も和気あいあい。抽選会がにぎやかに行われました。あつという間の半日を過ぎると、盛りだくさんの内容に皆さん満喫していただけた様子でした。

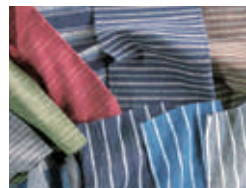


江南区の見どころあふれるまち歩きと知的好奇心をくすぐるスポットの体感ツアー。次回も楽しんでいただけるように企画しますのでご期待ください。



KAMEDAJIMA

江戸時代後期、当時日本最北の木綿栽培地だった新潟県の亀田郷で、腰まで泥につかる過酷な米作りを支えるため、丈夫で汚れに強く、しかも美しい縞柄の綿織物「亀田縞」が誕生しました。大正期にかけて全盛期を迎えた亀田縞は、時代の変遷で一度は途絶えましたが、消滅から半世紀を経て、現在も残る2軒の機屋により復活しました。従来の素朴であたたかい風合いと丈夫さに加え、特色である独特の肌ざわりのよさ、現代生活になじむしなやかさを兼ね備えた布として注目されています。



提供: 亀田郷土地改良区 / 撮影 本間喜八氏

はにかむ 編集後記

先日、亀田駅を通りかかると梅の花と亀田縞を使ったフラワーアレンジメントが! 鮮やかな花とともにアレンジされた亀田縞が見事に調和され、一目置かれる存在となっていました。洋服やバッグだけでなく装飾品として使われることも多い亀田縞。最近では区内の至る所で見かけます。区役所にも大きなタペストリーが飾ってあるのでぜひご覧下さい。さて、今年も桜の季節がやってきましたね。江南区には沢山の桜の名所があります。ぜひ桜と亀田縞巡りで春を感じてみてはいかがでしょうか。(スタッフA)

亀田の郷の縞だより はにかむエブリデイ008

■発行: 亀田縞利用促進協議会 / 亀田繊維工業協同組合

〒950-0134 新潟市江南区曙町3-6-1 TEL.025-381-4105 公式サイト <http://kamedajima.net/>

■発行日: 2024年3月31日 ■企画編集: パクチャープラス 佐藤洋子 酒井祐介 石井達

■協力: 赤木美名子

Blogも更新中!

亀田縞通信はにかむエブリデイ
<https://kamedajimashimashima.jimdofree.com>

情報、投稿
ご意見はこちら



Instagram

@kamedajima_kamedajima



Facebook | 亀田縞-kamedajima

